

実 習 報 告 書

【実習生】 今給黎 明

【実習期間】：令和 6 年 10 月 2 日（水）～ 令和 6 年 10 月 30 日（水）

【実習先病院名・指導医名】：長崎県対馬病院・糸瀬 磨先生

【実習内容の概要】

令和 6 年 10 月 2 日から 10 月 30 日まで約 1 カ月、対馬病院にて研修を行いました。対馬は自然が非常に豊かでツシマヤマネコやアナゴが有名です。空港に到着した際もツシマカワウソのモニュメントがお出迎えしてくれました。このように自然豊かな対馬病院での実習は外科の糸瀬先生指導の下、外来診療、病棟管理、急患対応などを学びました。対馬病院は長崎県病院企業団に所属しており長崎大学や他の大学の医学部の地域枠で来た若い先生が多く人の出入りが激しい印象でした。外科も大半が私より卒後年数が若い先生だったためコミュニケーションが非常にとりやすく分からないことは質問しやすい環境でした。



そのような中で具体的な診療内容としてはラバコレや上行結腸癌、アッペの腹腔鏡下手術や粉瘤、CV ポートの造設などの手術見学や内視鏡検査、HCU での患者の管理などカルテ上でしか見たことのないような診療を体験できました。最後の方ではアッペの手術で内視鏡のカメラ持ちをさせて頂き鉗子を入れた部分の埋伏縫合も行いました。初めてのカメラ持ちだったため手際が悪く術者の先生にはご迷惑をお掛けしながらの手術でしたがせまい腹腔内でモニターを操作する感覚はまるでゲームの視点を展開しているようで気が付いたら楽しくカメラ持ちを行っていました。急患外来では私が診ただけでもマダニ咬傷の患者が 1 カ月の間に 2 名もいました。そのうち一人が実際に自分の首元にかみついていたマダニを病院に持って来られていました。ニュースなどでしか見たことのない生きたマダニを初めて見た際には驚きと共に対馬の自然の豊かさを再認識しました。外科以外でも病院に一人しかいない ST さんと一緒に病棟患者の口腔ケアやスピーチカニューレの訓練を行いました。ST さんも非常に若い方で私よりも年下の方でしたが知識量が多く口腔ケアを行う際にはリハで使用するバランスボールを使用していました。また自作のブローイング装置を病棟で作成し軟口蓋挙上の訓練をするなど創意工夫に

富んだ口腔ケアを行われていました。その ST さんとは一緒に 1 週間ほど同じ患者さんを診させていただき年齢も近いことから公私ともに仲良くなり実習最後の夜には美味しい対馬アナゴをごちそうになりました。また 1 日だけですが八坂院長と一緒に上対馬病院に行き診察を見学した後に韓国展望台や万関橋など対馬の観光地を案内していただきました。八坂先生は歴史が好きで史跡を廻るのが趣味とのことで対馬の名所からマニアックな歴史なことまで様々なことを教えて頂きました。

このように 1 カ月という短い期間でしたが本当に濃い実習を行うことが出来ました。本実習を通じて地域医療の現状やそこで働く職員の方々がどのように努力し病院を支えているのかを知ることが出来ました。それと同時に対馬病院では歯科との関係が希薄で入院患者の口腔内のトラブルが多い印象も受けました。地域医療における医科歯科連携が困難であることを知ることが出来たのも大きな収穫となりました。



【今後の予定：臨床・研究等】

本実習の最初に指導医の糸瀬先生から普段から気になっていることとして「イレウスと歯科の関係性」に関して質問されました。内容としては歯数が少なく消化管の手術を受けた患者は術後イレウスになるケースが多い気がするとのことでした。先生は患者が退院後、自宅にて食形態の変更が困難な場合は歯が少ないために上手く咀嚼できず固形物をそのまま飲み込み消化管に負荷がかかりイレウスを誘発しているのではないかと考察されていました。

私は現在、周術期の口腔機能管理の研究をしていますがこのように臨床に即した考えは初めてでとても新鮮でした。地域医療を長年見られてきた糸瀬先生からの質問は大学病院で研究ばかりしている自分では思いつきもしないものでした。他にも糸瀬先生や ST さんから歯科に関して多くの質問を頂きました。この頂いた質問は都市部よりも高齢化がハイスピードで進み有病者が急激に増加している地域医療を助ける手掛かりになるものではないかと思いました。そのため今後、対馬病院のように地域医療を支える病院と連携して周術期の研究を行っていきたいと考えています。

実習報告会の様子

